

「グリーンスクール」表彰式 13:00~13:40

1 表彰の目的

環境教育の一層の推進を図るため、環境保全活動など実践的環境教育を積極的に推進する活動において、特色ある優れた実践を行っている学校をグリーンスクールとして表彰することにより、環境への意識の高揚を図ることを目的としている。

2 表彰の対象

次のような県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校を表彰の対象としている。

- 学校、地域環境を活用し、総合的に体験活動や学習に取り組み、環境教育に成果をあげている学校
- 持続可能な社会の形成に向けて、リサイクルやゴミ問題などの環境問題について積極的に学習に取り組み、児童生徒の環境に対する意識の高揚に成果をあげている学校
- 地域の希少生物やその生息地域等の保護活動に学校をあげて長期的に取り組むなど、自然保護活動に成果をあげている学校



グリーンスクールフラッグ

□ 受賞校一覧

(1) 平成30年度グリーンスクール表彰校 9校

〔小学校5校〕	明石市立大観小学校	姫路市立筋野小学校
	養父市立宿南小学校	香美町立奥佐津小学校
	洲本市立堺小学校	
〔中学校1校〕	三田市立上野台中学校	
〔高等学校2校〕	兵庫県立北条高等学校	兵庫県立香寺高等学校
〔特別支援学校1校〕	兵庫県立阪神昆陽特別支援学校	

(2) 平成30年度グリーンスクール奨励賞表彰校 3校

〔小学校2校〕	小野市立下東条小学校	新温泉町立浜坂東小学校
〔中学校1校〕	神戸市立大沢中学校	

□ 平成30年度グリーンスクール表彰校の取組（9校）

（1）明石市立大観（たいかん）小学校

「人も自然も大観の仲間～大観の自然を守る未来のリーダーの育成～」

地域の自然を「知り」「守る」「伝える」活動、「大観野鳥レンジャー」として、平成19年度から取組が始まった。現在は、1年生から6年生まで、誰でも参加できる、PTA主催の「放課後自然たんけん隊」や、3年生が野鳥マップや野鳥図鑑等の作成を通して自然環境の豊かさや大切さについて考える「大観野鳥レンジャーになろう」、5年生が、明石海苔や明石だこななどを題材に、地域の自然環境について知り、自分たちにできることを考える学習など、家庭や地域団体の協力を得ながら、大観の自然を守る未来のリーダーの育成に向け、学校全体で取り組んでいる。



（2）姫路市立筋野（あぞの）小学校

「ジャコウアゲハの舞うアザミの里復活へ！」

筋野の語源であるアザミを地域に復活させたいという思いから、自治会と協力し保全活動に取り組み始めた。また、アザミを吸蜜植物としている姫路市の市蝶であるジャコウアゲハが生息できる環境づくりや幼虫の食餌であるウマノスズクサの保全活動に、地域と連携して取り組むことで、生命を大切にする心とともに、郷土を愛する心情も育んでいる。こういった取組は、新聞やテレビ等にも取り上げられ、学校のみならず地域を挙げた活動として広がっていき、「地域を愛する次世代の人づくり」にもつながっている。



（3）養父市立宿南（しゅくなみ）小学校

「大好き 私たちの宿南 ふるさとの自然探検」

里山を活動拠点にした間伐体験や収穫したキノコを使った野外調理といった年間4回の自然体験活動や、学校前の水田での田植え、稲刈り等の米作り体験など、地域ボランティアや保護者の協力を得ながら年間を通じて継続的な取組を行っている。また、里山へのお礼を込め、桜やグミなどの苗木の植樹にも取り組んでいる。これらの取組を通して、地域の自然や人、命のつながりを実感するとともに、勤労の大切さや自然の恵みに対する理解が深まり、ふるさと宿南を愛する心情につながっている。



（4）香美町立奥佐津（おくさづ）小学校

「奥佐津を知り、もっと好きになろう（ひと・もの・こと）」

「奥佐津の自然環境を『見ること』『知ること』『触れること』『体験すること』『守ること』」をキーワードに、小学校6年間を通して、奥佐津の自然に関わる学習や環境に学ぶ機会を系統的・計画的に設けている。地域の名産の梨の袋かけや但馬牛とのふれあいといった地場産業と連携した取組や、佐津川の水生物の観察、樹齢500年と言われるトチの巨木を調査といった地域の自然を再発見する取組を通して、人と環境の共存を考え、地域の環境を守り受け継いでいく心を培い、主体的に行動できる子どもを育成している。



(5) 洲本市立堺（さかい）小学校

「いのち・くらし・みどり、ふるさとを愛し、つながり合う堺っ子」

これまで取り組んできた食育に関する取組を充実・深化させ、「地域の豊かな伝統文化を知り、守り、後世に伝えようとする心情を培う活動」として、米やサツマイモ、夏野菜等の栽培を①育てる ②収穫する ③調理する ④食べるの4観点に分類し、学校全体の教育課程に位置付けて取り組んでいる。また、水田を支える用水路やため池について調べたり、灌漑の仕組みや歴史、生息する生物について学んだりするなど、地域の自然、文化を知る活動や地域住民との交流活動を含めた学校独自の環境学習を展開している。



(6) 三田市立上野台（うえのだい）中学校

「『虹プロジェクト』 ～旅するチョウ アサギマダラを上野台に～」

「上野台中学校を日本一の学校に！」を合い言葉に、生徒会が中心となって、自然に囲まれた地域ならではの地の利を活かした取組として、フジバカマの栽培を通して渡り蝶「アサギマダラ」を自分たちの校区に飛来させる挑戦が始まった。また、取組のきっかけとなった京都府舞鶴市の中学校との交流や、校区内の小学校にフジバカマ植栽を広げる取組、アサギマダラをきっかけとした地域の人々との交流も行っており、アサギマダラが様々な交流の架け橋になるとともに、生徒の達成感や自尊感情の高揚にもつながっている。



(7) 兵庫県立北条（ほうじょう）高等学校

「あびき湿原の環境保全活動等を中心とした環境活動」

従来の部活動の取組に加え、人間創造コースの授業における探究活動にも取組を広げ、地域の保存会や研究機関と連携しながら、県内最大級の湧水湿原である「あびき湿原」の保全に取り組んでいる。草刈りや木道づくり、湿原に生息する絶滅危惧種や希少種の観察、植生の調査等を行った結果、ヒメカンアオイやハナショウブ等の植物、絶滅危惧種のギフチョウの卵が見つかるなど、「あびき湿原」の環境の回復が見られている。また、地域理解や地域社会とのつながりが深まり、自然豊かな加西市の環境を守る人材育成につながっている。



(8) 兵庫県立香寺（こうでら）高等学校

「高校生と地域自治体が対話する環境保全プロジェクト」

学校周辺に多数存在するため池に着目し、地域の自治体と連携した生物相や水質調査の実施を通して、地域の自然環境に関する知見を深めている。調査によって得られた成果を地域の調査結果報告会で発表したり、農業に利用されていないため池を、希少生物のジーンバンクに活用するといった保護対策を提案し、絶滅危惧種のカガブタやフトイを移植したりするなど、ため池の持つ公益的機能を有効に活用した町づくりに関わり、故郷を愛し、主体的に自然環境の保全と豊かな町づくりに取り組める生徒を育てている。



(9) 兵庫県立阪神昆陽（はんしんこや）特別支援学校

「和歌に詠まれた『猪名の笹原』をビオトープとして作ろう！」

校内の自然環境を回復するという身近な課題をきっかけとして、枯れ木の削減（リデュース）、剪定枝や落ち葉の再利用（リユース）、工事が出た石の再利用（リサイクル）の3R活動を実践している。また、和歌に詠まれた「猪名の笹原」の復元をテーマとし、校内にビオトープをつくり、伊丹の自然植生の再生と生物多様性空間の保全を学校と地域が共に行っている。これらは、生徒の地域の自然や環境に対する関心を高め、身近な環境について考えるきっかけとなるとともに、地域にノーマライゼーションの理念を広げる活動としてもつながっている。



□ 平成30年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（3校）

(1) 小野市立下東条（しもとうじょう）小学校

「下東条の自然に触れ、その魅力を知ろう」

大豆を種まきから収穫、調理することで命と食について考えさせたり、里山体験での動植物の観察や東条川への鮎の稚魚放流などの活動を通して、種の多様性や「いのち」の不思議さに気付かせたり、田畑や東条川の水辺、里山といった恵まれた周囲の自然環境を生かし、下東条の自然に触れ、その魅力に迫る活動が展開されている。また、東条川疎水ネットワークや保護者、地域住民、漁業協同組合など、地域の人々とともに、地域の自然を生かした活動を進めることで、児童にとって意欲的に身近な環境を考える契機になっている。



(2) 新温泉町立浜坂東（はまさかひがし）小学校

「自然にふれあい、ふるさとの良さを発見しよう！」

地元の漁師の方やグリーンサポーター、有機農法研究会と連携し、わかめの収穫や、水田や小川の水生生物の観察、有機農法と環境との関わりについて学ぶ活動など、体験を通して地域の恵みを五感で感じさせる活動を行っている。これらの活動を、年間通して行い、ふるさと学習と関連付けることで、豊かな自然が自分たちの周りであることを実感させたり、環境保全の大切さについて考えさせたりしている。



(3) 神戸市立大沢（おおぞう）中学校

「大沢地域の自然環境保全活動」

総合的な学習の時間や生徒会活動、ボランティア活動において、竹林整備や間伐作業の体験など、地域にある「産土（うぶすな）の森」の保全事業をNPO「神付・産土の森の会」や地域の方々と一緒に行い、里山保全の意義について学習している。年間2回の里山の樹木の生態調査では、どのような植物が絶滅の危機にあるのかを学習するだけでなく、木の香りや差し込む太陽の光など、自然保護の重要性を五感で感じる活動を取り入れることで、竹やぶや里山を保持していくためには何をすれば良いかを体験的に考える機会としている。

